

S S 探究 II B : 地域連携講座「長崎街道インフラさるく in 大村」

～産官学民連携による教科横断型の協働探究活動～

1 「インフラさるく」とは

長崎街道にある数々のインフラ（メンテナンス）に着目した、産官学（高大）民の連携による活動であり、3回の事前講義と1回のフィールドワークからなる教科横断型の協働探究活動である。また、これと相互補完する形で、情報収集、課題設定、ミニプレゼン等の活動を5回（計9コマ）行った。この一連の取組の中で、生徒が自身を取り巻く多様な社会や環境を知り、それらとの主体的なかかわりを通じ、社会参画力や協働実践力を育成することを目的とする。本校と長崎ウエスレヤン大学が協働で企画し、実施した。



第1回（事前講義①）のようす

2 参加者および協力機関

本校2年生72名（S S 探究 II B 履修生徒の中の希望者）
長崎ウエスレヤン大学 基盤教育センター および 学生
しゅうニャン橋守隊（山口県周南市建設部職員）
国土交通省九州地方整備局 長崎河川道路事務所 長崎県県央振興局 建設部道路課
大村市 都市整備部道路課 長崎県建設技術研究センター
大村市観光コンベンション協会 福重郷土史同好会 松原宿活性化協議会

3 活動記録

（1）第1回（事前講義①）

①実施日 2019年5月8日（水）

②参加者 本校生徒72名

長崎ウエスレヤン大学（教員・大学生 計12名） 講師等 5名

③場 所 大村高校 視聴覚教室

④内 容

第1部：「長崎街道インフラさるく」実施にあたって

- ・長崎ウエスレヤン大学の吉野 浩司 准教授より、講師の紹介、プログラムの概要、つけてもらいたい力等の説明を受けた。

第2部：先進的取り組みに関する講義

- ・大村市観光コンベンション協会の向野 頼洋 氏より、長崎街道と大村にあるインフラについての講義を、しゅうニャン橋守隊（山口県周南市建設部職員）の今井 努 氏より、土木の意義や橋守隊の取組についての講義を聞き、インフラ（メンテナンス）の重要性や市民参加型の活動の意義についての理解を深めた。

第3部：振り返り

- ・各自が理解したことや疑問点を列挙し、「私の10の疑問・質問」にまとめた。



写真左より、「プログラムの概要を説明する吉野 准教授」「講師の向野氏、今井氏（右）」
「振り返りに取り組む生徒」

(2) 第2回（事前講義②）

①実施日 2019年6月19日（水）

②参加者 本校生徒72名 長崎ウエスレヤン大学（教員・大学生 計12名）

③場 所 大村高校 第1体育館

④内 容

第1部：「協働とは何か」についての講義

- ・長崎ウエスレヤン大学の礪本 光広 教授より、高大接続改革と求められる資質についての講義を、吉野 浩司 准教授より、協働とシティズンシップについての講義を聞き、さまざま他者との協働の意義についての理解を深めた。

第2部：グループワーク

- ・5班に分かれ、前回各自が作成した「私の10の疑問・質問」を共有・昇華させ、班ごとに「わたしたちの10の疑問・質問」にまとめ、全体に発表した。ファシリテーターを長崎ウエスレヤン大学の大学生が務めた。



写真左「活動のようす」
右「成果物」

(3) 第3回(事前講義③+フィールドワーク+振り返り)

①実施日 2019年7月10日(水)

②参加者 本校生徒72名 長崎ウエスレヤン大学(教員・大学生 計12名)
官民の講師5名

③場 所 大村高校 視聴覚室、第1体育館
校外の研修場所

④内 容

第1部:大村で活躍する官民の講師による講義

・下記の6名の方を講師としてお招きし、事前学習を行った。



当日朝の打合せの様子

- ・長崎ウエスレヤン大学 教授 磯本 光広 氏(写真1)
- ・国土交通省 九州地方整備局 長崎河川国道事務所 溝口 正二郎 氏(写真2)
- ・長崎県県央振興局 建設部道路課 柳原 浩二 氏(写真3)
- ・大村市 都市整備部道路課 田淵 真也 氏(写真4)
- ・福重郷土史同好会 会長 上野 盛夫 氏(写真5)
- ・松原宿活性化協議会 村川 一恵 氏(写真6)



第2部:フィールドワーク

・A班は、長崎県建設技術研究センターを訪問し、インフラメンテナンスの実態と効果、橋の役割、老朽化の実態等についての講義とコンクリートの強度確認・破壊およびコンクリートの中性化についての実習を行った。



写真左「強度確認」
右「中性化の確認」

- ・B班は、大村市北部の松原宿にある旧松屋旅館の訪問と調査および松原宿活性化委員、福重郷土史同好会の方々の協力のもと松原地区の現状と課題のヒアリングを行った。



写真左「福重地区郷土史同好会の上野会長からの説明のようす」
右「松原宿活性化委員の朝長氏より説明を聞く生徒」

第3部：振り返り（4コマプレゼン）

- ・事前講義②で作成した「わたしたちの10の課題」の中から、自分達で課題を1つ選び、「インフラさるく」全体を通じて学んだことを活かし、自分達の考える課題の解決方法を4コマプレゼン形式で行った。



写真左「振り返り・4コマプレゼン作成のようす」
右「4コマプレゼンのようす」

4 実施の効果と考察

表1に、長崎街道やインフラを見る見方の変容についてのアンケート結果を示した。「通学路を通るとき意識して周りを見るようになった」「道路のひびに眼がいくようになった」「インフラという言葉がニュース等で聞くと反応するようになった」といったような、インフラに対する意識や興味関心の高まりがうかがえる回答が多くあがった。また、橋と歴史や地形などを結び付けるなど、視野の拡大や新たな視点の獲得をうかがわせる回答も見られた。

表2には、今後取り組みたい活動についてのアンケート結果を示した。4割近くの生徒

が、「地域の活動に参加する」「道路の不備を見つけたら市へ報告する」など、学んだことを行動に移したいと回答している。実際、8月に開催された長崎街道松原宿「寺子屋塾」（小学生への学習支援）には、本校より22名の生徒がボランティアスタッフとして参加したが、そのうち19名が「インフラさるく」の受講生であった。また、観光甲子園の予選を通過し、現在本選のためのプロモーション動画を作成している班や全国高校生サミットに応募し、地域の枠を超え「地方創生」について考える岩手県での2泊3日のワークショップ（主催：筑波大学）に参加した生徒もいた。加えて、インフラさるくでの学びを、9月の地方活性学会での発表を行う予定の生徒もいる。これらのことから、本プロジェクトは、「社会参画力」や「協働実践力」の育成という目的に対し、十分な効果があったと言えよう。

さらに、「学んだことを詳しく調べていく」「地域の危険箇所を調査する」など、主体的に学んでいきたいと考えている生徒や、「専門家の前で考えを発表する」「地元大村のことを他市の人にアピールしていきたい」など、外部への発表・発信に取り組みたいと考えている生徒も多い。これらのことから、新しい時代に必要となる資質・能力の柱の1つである「学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の育成に大きな効果があったと言えよう。今後は、SS探究ⅡBの探究活動の一環として、積極的に外部への発表や情報発信の場を紹介・提供し、今回のプロジェクトをより意義のあるものにしていくことが重要である。

活動中、いろいろな視点でものごとを見ることの重要性について言及した生徒も少なからずいた。ビッグデータに基づいた活性化の提案や自然環境と観光、食と健康と福祉など、領域横断的で多元的な視点による探究に取り組むことで、それぞれの課題探究を豊かなものとし、未来社会を逞しく生きる力、創造していく力を育むための効果的な取組を企画・展開していきたい。

表1 長崎街道やインフラを見る見方の変容






インフラへの意識・関心の高まり		32
インフラの重要性の認識		15
視野の拡大・新たな視点の獲得		14
インフラを大切にする気持ちの高まり		9
その他（未記入含む）		5

表2 今後に取り組みたい活動

学んだことを行動に移す		27
自分から調べる・学ぶ		17
解決策を考えたり、外部に発表・発信する		13
疑問や問題を見つける		10
その他（未記入含む）		4